ボバース記念病院から言語聴覚士の先生を
お迎えしての事例検討会（研修）

刀根山支援学校の訪問教育でお世話になっている、ボバース記念病院の言語聴覚士である佐野先生をお迎えして、コミュニケーションについての研修を行いました。
今回の研修では、佐野先生のご講演だけでなく、グループワークを取り入れて、在籍していた児童生徒とのコミュニケーションツールや支援の仕方についての検討も行いました。

検討会事前に VTR で日々の授業の様子を見た後、『りんごジュースが飲みたいと思った時に、本児の意思表出のよりよい手立てを考える』というテーマに沿って、各グループで話し合い、コミュニケーションツールなどの具体的な形に仕上げる準備を行いました。研修当日は、事前に各グループの話し合いで出された意見を具体的な形にまとめて発表を行いました。子どもが積極的に楽しめるスイッチのアイデア、腕の動きを感知したり、映像を選択したりする ICT を使ったアイデア、VOCA を使ったアイデアなど様々なアイデアがでました。

佐野先生にご講評いただくことで、各グループで検討したアイデアのよい所や更によい手立てにするための視点など、新たな気づきを得ることができました。多様なアイデアを出し合い、それぞれが大切だと考えたことを交換できた貴重な機会となりました。

最後にご講演いただいたお話には、コミュニケーションの基礎的な考え方からコミュニケーションスキルの獲得に向けた取組みなど、子どもたちと向き合うに当たって、大切なことが盛り込まれていました。教えていただいたこと、ご助言いただいたことをこれからの訪問教育に活かして、子どもたちの『もっとやってみたい』『伝えたい』という意欲につなげていきたいと思いました。

これからも医療的な立場から子どもたちと関わっておられる先生方とつながりながら、よりよい学びに向けてすすめていけたらと考えています。

カードや ICT、VOCA、子どもが楽しみながら押せるスイッチなど、多様なアイデアが出ました